

チーム担任制に関する児童アンケートの結果(1学期)

①「チーム担任制が自分にとってどうだったか」の回答

	とても否定	否定	普通	肯定	とても肯定
1年	0	0	4	7	19
2年	0	3	2	0	17
3年	0	1	5	2	13
4年	2	1	5	9	13
5年	0	2	5	11	7
6年	1	2	11	8	8

「とてもよくなかった」を1点、「よくなかった」を2点、「ふつうだった」を3点、「よかった」を4点、「とてもよかった」を5点として平均点を出すと 4.1 点になりました。

② 回答理由の AI による要約

良かったこと

- **優しい先生がたくさん！**
 - 「先生たちがみんな優しくかった！」という声が一番多かったです。優しい先生と話したり、遊んだりできて、学校がもっと楽しくなったと感じている人がたくさんいます。
 - 特に「困ったときに『どうしたの?』と聞いてくれた」「高い高いしてくれた」など、具体的に優しさを感じたエピソードも聞かれました。
 - 特定の先生の名前を挙げて「優しくかった！」と言っている人もいました。
- **色々な先生がいるから楽しい！**
 - 「色々な先生が教えてくれるから飽きない」「次はどんな先生だろう?とワクワクする」という意見が多くありました。
 - 先生が変わることで、授業が新鮮に感じられたり、色々な先生と話す機会が増えたりして、学校生活がより楽しくなったようです。
 - 「色々な先生と仲良くなれた」「たくさんの先生と話せる」というのも嬉しい点でした。
- **勉強が分かりやすい！**
 - 「教え方が上手だった」「授業が分かりやすかった」という声もありました。
 - 「喧嘩した時に優しく話を聞いてくれた」「面白くてよく分かった」など、授業以外の場面でも先生たちの説明力や対応力を評価する意見がありました。
- **安心できる、相談しやすい！**
 - 「困ったときに相談できる先生がたくさんいる」という安心感を感じている人が多かったです。
 - 「質問しやすくなった」「何かあったらすぐ言える」と、先生に話しかけやすくなったことを喜んでいました。

ちょっと困ったこと

- **先生が変わることで困ることも**
 - 「慣れたと思ったら先生が変わる」ことに、少し寂しさや戸惑いを感じる人もいました。
 - 「先生ごとにルールが違うからややこしい」という声もあり、先生が変わることで情報の伝達がうまくいかないことがあるようです。特に「この先生に話しても、別の先生には伝わっていなかった」という経験は困ったこととして挙げられています。
 - 「宿題が出ていない時に誰に言えば良いか分からなかった」というように、責任の所在が不明確になることもあったようです。
- **相談しにくい時もある**
 - 「相談とかもどの先生に相談すればいいか分からない」という声もありました。
 - 「相談したい先生がいても、違う学年を担当していて相談できなかった」という、残念な思いをした人もいます。
 - 「担任が一人だと何も変わらなかった」「人数が増えたけど、あまり変わらなかった」と、先生の数が増えても変化を感じなかったという意見もありました。
- **その他**
 - 「時には厳しかったけど、授業は楽しかった」という、厳しい一面もあったけれど全体としては良かったという意見もありました。

児童の意見から、先生たちが優しく、色々な先生がいることで学校が楽しくなっていることがよく分かりました。一方で、先生が変わることによる情報の共有や相談のしにくさなど、改善してほしい点もいくつか見つかりました。

チーム担任制に関する保護者アンケートの結果(89軒の回答 回答率70%)

① チーム担任制の受け止め

とても否定	否定	普通	肯定	とても肯定
5軒	7軒	19軒	23軒	35軒
5.6%	7.9%	21.3%	25.8%	39.3%

「否定的に受け止めている」から「肯定的に受け止めている」までを5段階に分けて回答をしていただきました。「とても否定」を1点～「とても肯定」を5点として平均点を出すと3.85点になりました。

② 回答理由の AI による要約

良かった点、期待する点

多角的な視点と安心感

- 複数の先生が子どもを見てくれるため、色々な角度から子どもの様子を知ることができ、安心感がある。
- 子どもとの相性が合わない先生がいても、他の先生に相談できるので気が楽。
- 多様な価値観を持つ先生と関わることで、子どもの視野が広がる。
- 先生同士が情報を共有することで、より良い指導につながる。

先生の負担軽減

- 先生一人ひとりの負担が軽くなり、無理なく働ける環境になる。
- 先生が心に余裕を持つことで、子どもたちにも良い影響がある。
- 先生が休みを取りやすくなる。
- 何かあったときに、一人の先生が抱え込む必要がなくなる。

子どもへの良い影響

- 子どもが相談しやすい先生を選べる。
- 色々な先生と接することで、人によって対応が違うことなど、柔軟性が身につく。
- 子ども自身がこの制度を肯定的に受け止めている。

懸念点、改善を望む点

責任の所在と情報共有

- 「誰が担任なのか」「誰に相談すればいいのか」が分かりにくい。
- 先生同士の情報共有が不十分なのではないかと感じる。

- 相談内容によって「それは違う先生に聞いてほしい」と言われることがあり、戸惑う。
- 保護者懇談会で毎回担当の先生が変わるため、子どもの継続的な成長や変化を把握しにくい。
- 教科担任制とチーム担任制が併用されていることで、責任の所在が曖昧になっているのではないか。

子どもへの影響

- 子どもが「担任の先生が不在のようだ」と感じている。
- 低学年の子どもは担任が固定されている方が安心すると感じる子もいる。
- 先生によって指導に一貫性がない場合がある。
- 子どもが「落ち着かない」と感じている。

先生への懸念

- 人気の先生や対応の良い先生に負担が集中するのではないか。
- 先生同士の連絡が増え、かえって業務が増えているのではないか。
- 複数の先生で担当することで、一人ひとりを深く見ることが難しくなるのではないか。

その他

- この制度が導入されたばかりで、まだ様子見という声も多い。
- 先生方には、まずは働きやすい仕組みを続けてほしいという意見も多数ありました。
- この制度は、特に1学年1学級の学校には向いているのではないか、という声もありました。